

ものづくりの楽しさ伝えます

25日、三栄クラフター（杉並区西荻北 2-1-11）では、親子でつくる夏休み工作教室が開催されました。この工作教室は、この地で創業した三栄クラフターが子どもたちに、ものづくりの楽しさをしてもらおうと今年初めて開いたもので、今日から27日までの3日間、午前・午後の6回で各10組の親子が木工体験や TILE ART に挑戦します。

三栄クラフターは、平成5年にこの地で創業された一部上場の三栄建築設計株式会社の大工さんの養成部門として、平成27年1月に誕生しました。三栄建築設計の小池信三社長は、もともと大手デベロッパーの営業マンでしたが、ある日、お客さんから「建売住宅だからしかたないね」との言葉に発奮。建売でも、良い家を提供したいと、一念発起して起業しました。

小池社長の「その土地に最も暮らしやすい住宅をつくること」「同じ家は、つくらない」というこだわりを貫き、会社は急成長してきました。しかし、こうした住宅を作るためには、しっかりとしたスキルを身につけた大工さんが必要です。大工仕事は、10年くらいの見習い期間が必要と言われてきました。その言葉通り、見て習うために時間が掛かります。また、技術は取得できても独立できるビジネスセンスやマナーは別に覚えなければならないため、若い人で大工を目指すという人が減っており、大工の高齢化が進んでいます。そこで、働きながらビジネスマンとして必要な知識やマナーも同時に身につけた次世代の大工の育成を目的として大工の養成をする会社の誕生となりました。ここでは、見て習うのではなく、まずは6ヶ月の研修期間で基礎を学び、その後はベテラン職人の手ほどきを受けながら現場で実践することで、5年ほどでよい住宅を作る担い手となり、大工として独立も目指せます。



こうしたものづくりの楽しさを、より多くの子どもたちにも知ってもらいたいと、今回は工作教室を開催することになりました。25日午前10時、作業場には小学1～5年生の11名と保護者が集まりました。3年生以上は、のこぎりと電動ドリルを使って木製のイスづくりです。1～2年生は、すでに用意された木製のペン立てや小物入れなどにモザイクタイルでデコレーションをしました。養成所の研修生や職人さんの指導を受けながら、およそ2時間で、店頭で値札を付けても恥ずかしくない立派な作品が完成しました。近くに住む小学5年生の男子児童は、「のこぎりを持つのは初めてでしたが、歯全体を使ってゆっくり動かすように言われ、うまくできました。初めて自分で作ったイスは大切にしたい。」とうれしそうに話していました。

【問い合わせ先】

三栄建築設計経営企画部広報室：03-5381-3213
総務部広報課：03-3312-2111 内線1502